

「軽金属溶接」執筆要綱 新製品・新技術紹介

1. 原稿の定義

軽金属の溶接・接合及び構造(物)に関する新しい製品や新しい技術を紹介したもの。

2. 参考文献の記載

必要に応じて適宜

3. 掲載データ

オリジナルデータ必須

4. 原稿の採否

編集委員会で採否を決定する場合がある。

5. 投稿方法

原稿は原則として、パソコンを用いて作成し、電子メールにより投稿することを推奨する。電子ファイルに書き込んだ CD-ROM, フラッシュメモリ (USB), SDカード等による投稿でも良い。

6. 使用ソフト

使用ソフトは、原則として Word, Excel, Power Point 等とする。文章は Word が望ましい。

7. 言語

和文(基本)

8. 文章の書き方

原稿は、A4判、横書きで、原則として、文字の大きさは10.5ポイント、文字種は本文がMS明朝(和文)とCentury(英文)、表題はMSゴシック(和文)とArial(英文)とし、文字数は43字×36行×1段組、又は20字×36行×2段組(上下左右余白は25mm)とする。

9. 用字と用語

漢字及びその使い方は、原則として常用漢字表による。かな書きで分かりにくい場合は、常用漢字以外の漢字を用いてもよい。また、読みにくい場合はルビを振る。かなは、

ひらがなを用いる。外来語及び外国語は、カタカナ又は原文を用いる。専門用語は、原則として日本工業規格の用語及び文部省制定の学術用語を用いる。

10. 数量の単位

原則としてSI単位系とするが、必要に応じて、例えば、引用図等の一部に従来のCGS単位系を用いてもよい。この場合、SI単位との換算式を示すこと。なお、両単位の併記は差し支えない。

11. 題目

和英両文の題目

12. 著者名

和英両文。所属名を含む。所属は、原稿用紙の下部を横線で区切り和英両文で書く。著者が数名で所属の異なる場合は、氏名及び所属の頭にアスタリスク(*, **, ...)をつけて区別する。

13. 原稿(文章)の構成

和文本文のみ(概要不要)

14. 原稿長さ(目安)

おおむね刷上り4ページ以下。刷上りの1ページは、原則として26字×49行×2段(和文)である。

15. 章、節の書き方

ポイント・システムによる。<例 1., 1.1, 1.1.1 >

16. 図、写真、表

図及び写真は、原則的にFig., 表はTableとし、通し番号で表示する(本文中に引用する場合も同じ)。Fig. 及びTableは、原稿の末尾に一括してまとめ、本文中の右余白に挿入場所を明記する。

提出する図原稿は、パソコン又は墨書きによる作図を原則とする。

写真は鮮明なものを使用し、顕微鏡写真にはスケールバーを入れる。

なお、電子投稿の場合でも、図面及び図面中の文字は、原則として修正しない。

17. 脚注

備考、付記、著者、所属名等、注の類は脚注とし、ページごとにアスタリスクで表す。

18. 参考文献

本文の末尾に参考文献としてまとめて記して、本文中で引用する場合は、引用番号の数字を「上つき片かっこ」で該当文章の右肩に付す。参考文献の記載方法については、雑誌の場合は著者名：題目、誌名、巻 一 号（発行年）、ページの順に、単行本の場合は著者名：書名、発行所、（発行年）、ページの順に記す。

（例）

1) 竹本正, 松縄朗, 渋谷季弘: Mg 含有アルミニウム合金の非腐食性フラックスとの反応及びろう付性, 溶接学会論文集, Vol. 15-2 (1997), 241-246.

2) L. A. Guitterez, G. Neye and E. Zschech: Micro-structure, hardness profile and tensile strength in welds of AA6013 T6 extrusions, Welding J., Vol. 75-4 (1996), 115s-121s.

3) 千葉晃司: マルチマテリアル車体の動向, 軽金属溶接, Vol. 51-11 (2013), 423-429.

4) 時末光編著: FSW (摩擦攪拌接合) の基礎と応用, 日刊工業新聞社, (2005), 137-142.

19. 顔写真の掲載

原則として執筆者の顔写真を掲載する。

20. 査読

原則不要。ただし、編集委員会が修正を依頼することがある。

21. 外国語での投稿

委員会が必要と認め依頼した原稿のみ可

能。用いる言語は英語のみとし、それ以外の外国語では投稿できない。

22. カラー掲載

掲載は、モノクロを原則とするが、特に要望があれば、カラー掲載も可能とする。

カラー掲載の費用は、原則として投稿者負担とする。

23. その他

ローマ字の大文字又は小文字、イタリック体、ゴシック体、ギリシャ文字などの字体の指定は、特にまぎらわしいとき、著者が赤鉛筆などで指定する。

24. 著作権と原稿の責任

1) 本協会が編集発行する著作物の著作権は本協会に帰属する。

2) 掲載された記事の内容についての責任は、著作者自身が負うものとする。また、当該著作物について他の著作権の侵害、名誉棄損、または、その他の紛争が生じて、それによって本協会に損害が生じた場合には、本協会に対し当該損害を補填するものとする。

3) 本協会刊行物に掲載された論文・記事などの電子化・インターネット公開に関しても、上記を適用する。